

Ⅱ 愛知県の主要な漁業

① 小型機船底びき網漁業

網を海底におろして船でひき、主に海底に生息する魚介類を漁獲する漁業です。

愛知県で生産額が最も多い、代表的な漁業種類です。各地域で盛んに操業されていますが、中でも南知多町・西尾市・蒲郡市などが主な漁業基地となっています。

この漁業は、網口を開くために開口板を用いる板びき網漁業や桁を備えたけた網漁業などに分類されます。

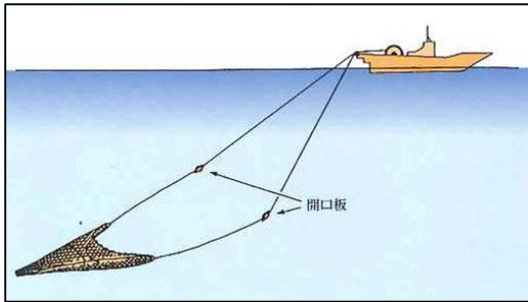
●主な漁場



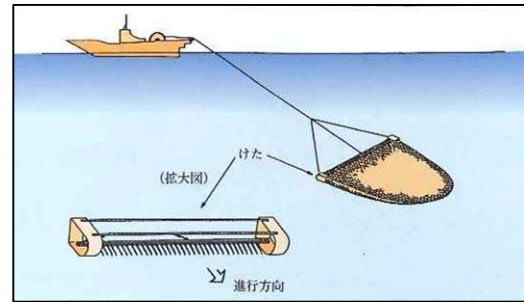
伊勢湾
知多半島
三河湾
渥美半島
渥美外海

●主な漁獲物

 : カレイ類、アナゴ類、アジ類、スズキ
 : アサリ、バカガイ、トリガイ
 : シャコ、サルエビ、クルマエビ



板びき網漁業



けた網漁業

板びき網漁業

伊勢湾と渥美外海では板びき網漁業が盛んに行われています。

漁場に着いたら網、開口板の順に投入し、全速前進しながら曳網(ひきづな)を繰り出します。繰り出した曳網(ひきづな)の長さが水深の6~8倍に達したら、速度を落として約1時間曳網(えいもう)後、揚網します。



板びき網の漁獲物の選別



板びき網の揚網作業

漁獲された魚介類は、種類や大きさや活きの良さなどによって選別されます。生きた魚は値が良いので、水槽に活かした状態で持ち帰ります。

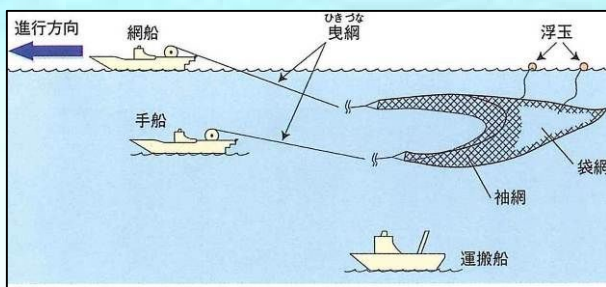
選別(えいもう)は曳網中に行うため、時間との勝負になります。

②船びき網漁業

一つの網を2隻の船でひき、イワシ類やシラス等を漁獲する漁業です。

本県の船びき網漁業には大きく分けてしらす機船船びき網漁業、機船船びき網漁業の2つがあり、さらに機船船びき網漁業にはいわし・いかなご船びき網漁業、いかなご船びき網漁業、さより船びき網漁業などがあります。

船びき網漁業は小型機船底びき網漁業に次いで主要な漁業で、南知多町・碧南市・田原市等が主な漁業基地になっています。



船団・網の構造

船びき網漁業は船団を組んで行動し、1船団は網をひく網船と手船、漁獲した魚を港へ運ぶ運搬船の3隻で構成されています。

しらす機船船びき網漁業

通称「しろめひき」と呼ばれる漁法で、主として南知多町に根拠地があります。

主にカタクチイワシの稚魚であるシラスを漁獲します。

袋網の先端は着脱可能となっており、シラスの入った先端部のみを取り外し、運搬船に揚げてシラスを収容します。



シラスの水揚げ風景



漁獲したイカナゴの収容作業

いわし・いかなご船びき網漁業

通称「ぱっち網」と呼ばれる漁法で、愛知県の中では比較的大きな漁船が使われています。イワシ類の他、春先にはイカナゴを漁獲します。

漁獲されたイカナゴはカゴに入れ、運搬船で港へ運びます。



釜揚げ後に天日干しされるイカナゴ